

北陸新幹線建設促進大会・北陸新幹線建設促進同盟会総会が開催されました

5月23日(火)に北陸新幹線建設促進同盟会(北陸新幹線沿線の10都府県で構成・会長は杉本福井県知事)主催の北陸新幹線建設促進大会と同同盟会の令和5年度総会が東京都内で開催され、沿線の知事や国会議員など約280人が出席し、当市からも松崎市長と藤田市議会議長、井田会頭が出席しました。

今回の大会では、初めて京都府の西脇知事や大阪府の吉村知事、関西広域連合長の三日月滋賀県知事がそろって出席し、全線開業が関西全体の発展につながるとうえで、敦賀・新大阪間で今年度実施される北陸新幹線事業推進調査へ協力するとともに、関西の機運醸成に役割を果たすと述べるなど、全線開業に向けた関西地域の協力が確認できました。

このほか大会では、敦賀・新大阪間について、①沿線地域の意見を踏まえながら、環境アセスメントを地元調整も含め丁寧かつ迅速に進めること。②「北陸新幹線事業推進調査」については、国において沿線住民の理解を得ながら、従来、認可後に行っていた調査も含め、必要な調査等を先行的・集中的に行うことにより、施工上の課題を早期に解決するとともに、開業までの期間を最大限短縮すること。③沿線自治体との情報共有を徹底しながら調査・検討を迅速に進め、駅位置・詳細ルート等の情報や、認可・着工及び全線開業に向けたスケジュール感を早急に明らかにすること。④新幹線への公共事業費の大幅な拡充・重点配分、貸付料財源の最大限の確保、財政投融資の活用等により整備財源を早急に確保するなど、着工5条件の早期解決を図ること。⑤関西をはじめとする沿線地域の住民に対し、国が前面に立って、国土政策の根幹を成す極めて重要な国家プロジェクトである北陸新幹線の必要性や意義を丁寧に説明し、早期全線整備に向けた理解促進を図ること。の5点を盛り込んだ決議を採択しました。



▲促進大会の様子